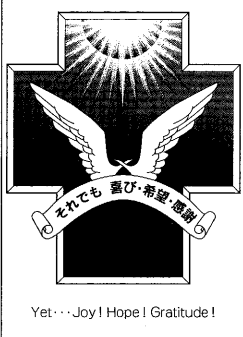




〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間共1100円

道標



ポール・アン助祭 喜びの司祭叙階



郡山司教(中央)から接手を受けるアン師

鹿兒島教区に宣教師として派遣される予定のポール・アン助祭(ベトナム、ニャチャン教区所属)の叙階式が四月二十二日(土)午前九時からマニラ大司教区のカテドラルで行われた。鹿兒島教区から郡山司教をはじめ中野神父、ベラルディノ神父、郡山勇三郎さん(始良教会)の四人が参列した。

式はマニラ大司教の口——郡山司教を含む司教二人と、ザール枢機卿主司式で、二百人以上の司祭団の入場が始まった。聖堂を埋め尽くした千人ほどの会衆と管弦楽団の演奏と聖歌隊の荘厳で明るい聖歌の中でミサは進められた。

説教の後、四人の助祭叙階と五人の司祭叙階が続いて行われた。司祭に叙階された五人の内二人はフィリピン人で、三人

=人= 始良教会主任 マリン神父

この四月、始良教会に着任した聖ザベリオ宣教会のフランシスコ・マリン神父。「パコ神父です」(スペイン語でフランシスコの愛称)と愛嬌たっぷりの笑顔で挨拶してくれるスペイン南東部ビジュナ出身の六十二歳である。

一九七五年叙階後、聖フランシスコ・ザビエルの出身地ナバラでも働いていたことのある神父は、一九八〇年来日後、大阪の教会で奉仕していた。鹿兒島への赴任は初めてで、郡山司教から要請が来た時は「よろこんで！」



と答えたとか。「始良教会は日曜日のミサへの参加割合が多く、とても嬉しい」とこやかに話してくれた。

実は、「カミナリ」が大の苦手である稲光と雷鳴が聞こえると、ミサも手につかないとか。雷の季節には特にパコ神父のためにもお祈りください。

五月十四日(日)午後二時から、教区本部会議室で経済問題評議会が開かれた。

郡山司教が主催する初めての教区の財務に関する会議で、これまでの名称「教区財務委員会」をカトリック新教会法典の条文に倣い「経済問題評議会」と改称し、評議員も大幅に替わった。

二〇〇五年度の決算報告では、献金収入の部で

教区財政の立て直しを審議

教区財務委員会改め経済問題評議会

予算額に対し、決算が二百万ほどの減収であることや、ここ数年、献金収入が減り続けている事実も報告された。また、司教区昇格五十周年記念事業として出版配布された「教区報縮刷版」の教区民への周知度が低いこと、出版経費に見合う献金収入が大幅に不足しているとの報告もなされた。これらに対し信徒評議員から、信者が教会

事会が開かれ、それぞれに喜びを分かち合った。

アン司祭の初ミサ

同日午後七時から、アン神父は司牧実習をしていた聖家族小教区の聖堂で初ミサをささげた。ミサは鹿兒島からの三人とニャチャン教区から司教秘書のヨゼフ神父、それに主任司祭のマルコス神父の共同司式で行われた。ミサ後にはアン新司祭の挨拶があった。また新司祭のお母さんから感謝の記念品が手渡された。

感謝のミサ

翌日二十三日(日)午後十一時からラジオベリタス(アジアの国々の中でも困難な政権下で生きているカトリック信者向けの短波放送局)で今回の三人のベトナム人司祭誕生を祝う合同のミサがささげられた。ミサにはベトナム戦争後海外居住のベトナム人司祭を含む約五十人の司祭と、ほ

ば同数の信徒、修道者が集い喜びを分かち合った。

聖家族教会での郡山司教司式の主日のミサ

同日午後七時半からアン新司祭は聖家族教会で主日の七番目のミサを郡山司教とささげた。郡山司教は説教で、はじめは英語で挨拶を述べた後本題に入るとベラルディノ神父(フイリッピン国籍)に頼み、彼が現地語のタガログ語で通訳した。復活したキリストを迎えるわたしたちはハッピー(幸せ)であるはず。自分のハッピーの源泉が復活したキリストへの信仰であると身振り手振りで説くと、聖堂を埋め尽くした会衆はミサ後、司教の祝福をもらうため郡山司教を取り囲んだ。

アン新司祭と

お母さんについて
アン司祭のお母さんは六十五歳、毎日、教会に通い教会を守っている。アン

維持費の額を決める際の目安となる「収入の三割」(一九七七年教区財政正算化計画・二〇〇〇年七月一部修正参照)を周知徹底させることや、「教区報縮刷版」が教区民の知的遺産として教区民に認識され配布されるように司教のアピール文などがあつたらよいとの意見が出された。

二〇〇六年の予算案では、苦しい予算編成の中で一般寄付金に頼るのでなく、借り入れや、特定預金の取り崩しもやむを得ないとの意見が多数を占めた。

カトリック医療者の集い ご案内

日時: 6月25日(日) 13時~16時15分
場所: 鹿兒島カテドラル
会費: 一般 1,000円
学生 500円

申込締切: 6月20日(火)
講師: 郡山健次郎司教

テーマ: それでも 喜び 希望 感謝
申込先

純心大学 (Sr.高平 TEL.0996-23-5311)
聖母寮 (Sr.沢 TEL.099-253-6658)

YET!

生きていくと人はいろんなものを運び、また自分にとって必要、不必要にかかわらずいろんなものが運び込まれてしまうことがある。それが荷物であっても感情であっても結構煩わしかったりする。梅雨に入る前だったか、その頃の空と同じように心の晴れない日々が続いた。持ち込まれた「思い」によって、苛立ち、悲しみ、申し訳なさ、と様々な感情が湧いたからだ。暫くして、持ち込まれた思いは居場所を見つけたのか、苛立ちを見せたこちらの感情を連れて姿を消した。そしてあとには「感謝と和解」という土産が置かれていた。はじめ持ち込まれた感情に対して勝負を挑もうとしたものの、勝者も敗者もない意外な結果にたどたどしく驚かされた。怪我の功名だったのか。それはともかく、あらためてこの顛末と事件の進展について思いを巡らしたとき「いや、違う。皆、私の道具。勝つのはいつも私」との声が出たように思えた。

ザビエル縁の地からお客様

マラッカと鹿児島島の掛け橋に

四月二十四日(月)夜、ザビエル教会で「マラッカ市民歓迎会」があった。これはザビエル上陸顕彰会、マレーシア友好協会マラッカクラブの主催で開かれたもので、マラッカ・ザビエル教会からジェームス・ラジェンダン神父と信徒代表二人の計三人が鹿児島訪問したのを記念して、企画されたもの。

マラッカは、ザビエルが度々訪問した地で、ヤジロウとザビエルが出会った場所である。この日の集いを企画したマラッカクラブでは、鹿児島とマラッカの縁を大切に、特にこのザビエル生誕五百年の年にその絆を深めようとしている。現在、同会では、マラッカで七月にささげられる「ザビエル生誕五百年記念ミサ」の折りに、ビッグな贈り物をと準備している。

部屋に入り口に掛かっているいかめしい門札?は「司教執務室」。

司教執務室便り

「司教執務室」。

中に入ると、これまで使ったことのないような大きく立派な執務用のテーブル。背後には、ガラス戸つきの立派な書棚と書類入れ。

しかし書棚に収まっているのは、聖書や漢字の辞書類とMEのファイルが主なもの。おかげでガラガラ。書類はさながら物置。テーブルに向かって執務するといっても、作成したはが

それはザビエル公園(鹿児島市)に建てられているザビエル、ヤジロウ、アンジロウの像(溝口守一鹿児島女子短期大学教授制作)から同様の二体(ザビエルとヤジロウ)を制作し、寄贈しようというもの。また会では、記念ミサと除幕式に参加するツアーも計画している。同会に興味のある方、ツアー参加希望の方は七枝敏洋氏(〇九〇―三七三九―九四〇五)まで。



同じ二体の像がマラッカに置かれる

き切手を貼る時に使うぐらいで、やっぱ、いろいろな物を置く台の域を出ていない。

そんな広々とした執務室に小さなチャペル?を作

執務室ビフォー・アフター

つてみた。何のことはない。藤製の四つ折りつい立を置き、小さなテーブルには聖書とローソク。正面の壁には甥にももらったエチオピア土産の木製の十字架。床に

薩摩の殉教者

レオ税所七右衛門①

ドミニコ会と京泊教会

ドミニコ会の宣教師が下甕島の長浜に上陸したのは1602年7月3日のこと。苦しみに耐えながら活動した宣教師たちは、1605年8月15日に里村に教会を建てることができた。しかし、その数日後に教会は台風のため壊れてしまった。このため島津家久は、ドミニコ会士たちに移転を許可した。許されたのは川内川河口の京泊。彼らは町から少し離れた丘の上に聖ドミニコにささげられた教会を建て、ここを拠点に布教活動を開始した。

1608年春、この教会の門を薩摩の殉教者と称えられることになる北郷加賀守・税所七右衛門が叩くのである。

ご存知ですか?ベトナム

アン司祭・ティエン助祭の祖国



赤地に黄色の星が描かれているベトナム国旗



ベトナム社会主義共和国

国家首席 チャン・ドゥック・ルオン
面積 33万2000km²
人口 8250万人
通貨単位 ドン
首都 ハノイ

使ってみようベトナム語

Xin Chào

シン チャオ

こんにちは

実施日	曜日	科目	講師(敬称略)
6月16日	金	説明会:14時・19時の2回(1時間程度)	事務局
1	6月23日	共に歩むためにI	竹山 昭(純心女子大学)
2	6月30日	カウンセリングの基礎知識I	大坪治彦(鹿児島大学)
3	7月3日	アルコール依存症 その関わりI(公開)	森口 進(森口病院)
4	7月7日	カウンセリングの基礎知識II	大坪治彦(鹿児島大学)
5	7月10日	アルコール依存症 その関わりII(公開)	森口 進(森口病院)
6	7月21日	家族の人間関係	今林俊一(鹿児島大学)
7	7月28日	青少年の心理I	今林俊一(鹿児島大学)
8	8月4日	青少年の心理II	今林俊一(鹿児島大学)
9	8月25日	職場の人間関係	有倉巳幸(鹿児島大学)
10	9月1日	人間関係の中のストレス	有倉巳幸(鹿児島大学)
	9月8日	懇親会:会場未定	
11	9月15日	電話カウンセリングの実際I	事務局
12	9月23日 9月24日	一泊研修:鹿児島純心女子大学(薩摩川内市)	高平百合子(純心女子大学)
13	9月29日	良い聴き手となるためにI	大坪治彦(鹿児島大学)
14	10月6日	良い聴き手となるためにII	大坪治彦(鹿児島大学)
15	10月13日	電話カウンセリングの実際II	事務局
16	10月20日	良い聴き手となるためにIII	大坪治彦(鹿児島大学)
17	10月27日	良い聴き手となるためにIV	大坪治彦(鹿児島大学)
18	11月10日	共に歩むためにII	竹山 昭(純心女子大学)
19	11月17日	共に歩むためにIII/修了式	竹山 昭(純心女子大学)
	11月24日	懇親会:会場未定	
	12月1日	オリエンテーション(相談員認定者のみ)	事務局

「鹿児島きぼうの電話」の第十九回養成講座が、六月十三日(金)から始まる。講座は全十九回で、二十歳以上の方なら誰でも、また相談員になる意思はなくても受講できる。相談員の確保に苦慮している同電話の事務局だが、「この講座は人間関係を保つために役立つ」と多くの人の受講を呼びかけている。受講料は七千円。六月十六日(金)十四時と十九時に説明会がある。説明会会場は、講座会場と同じくザビエル教会一階ホール。

きぼうの電話が養成講座

カトリックの精神に基づき、電話を通して社会と教会の橋渡しを

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang tungkulin ng tao para sa Diyos"

Ang unang bahagi na tinalakay natin ay tungkol sa "Pagnais para sa Diyos". Ngayon ang pangalawang bahagi ay ang tungkol sa "Paraan ng pagkilala sa Diyos". Ang tao ay nilikha na kawangis ng Diyos at siya'y tinawag na kilalanin at mahalina Siya(Diyos), ang taong humahanap sa Diyos ay natutuklasan ang isang paraan na makilala Siya(Diyos). Ito rin ang tinatawag na pagpatotoo para sa pag-iiral ng Diyos, hindi sa katuwiran ng siyensiya natural, subalit sa sentido ng "katunayan at papaniwalaan na katuwiran", na kung saan tayo ay nakakasiguro tungkol sa katotohanan. Itong "paraan" na paglapit sa Diyos buhat sa nilikha ay may dalawang punto ng pag-alis: ang mundo na pisikal at ang taong pagkatao. Ang mundo: mula sa paggalaw, pagiging pangyayari at ang kaayusan at ganda ng mundo, na ang isang tao'y pwedeng makilala ang Diyos bilang pinagmulan at katapusan ng daigdig. Sabi nga ni San Pablo sa mga hentil: Ang kanilang pagkakilala sa Diyos ay simple lang, dahil ipinakitang Diyos sa kanila kahit mula ng likhain ang mundo ng kanyang naturang di maaring makita, halimbawa, ang kanyang kapangyarihan na walang hanggan at ang pagka-diyos, ay malinaw na makikita sa mga bagay na ginawa. Sabi rin ni San Agustin: katanungan sa kagandahan ng mundo, ng dagat, ng hangin, ng langit at katanungan sa lahat ng katotohanan. Sagot ng lahat: "Tingnan, lahat tayo ay maganda". Ang kanilang kagandahang ay isang pagpahayag. Ang lahat ng kagandahang ay maaring magbago. Ngayon sino ang gumawa sa kanila, kundi ang "Pinakamaganda" sa lahat na kailanman ay hindi magbabago? Dahil sa kamaharlikaan at kagandahan ng mga kinapal, hinihinuha natin na ang Lumikha sa kanila ay lalong dakila at kahanghangang. (Wis 13:5). Ang tao sa kanyang pagiging bukas sa katotohanan at kagandahan, ang kanyang sentido ng kabutihang aral, kalayaan at ang boses ng konsensiya, kalakip ng kanyang pagnanais para sa hangganan at kaligayahan, ang tao ay nagtatanong sa kanyang sarili tungkol sa pag-iiral ng Diyos. Ang mundo at tao ay nagpapatunay na mayroon sila sa kanilang kaibuturan ng pinagmulan at katapusan, subalit sila ay nakikiisa sa Maylikha, na wala ng pinagmulan o katapusan. Kahit na ibat-ibang paraan, malalaman ng tao na mayroon pag-iiral ng katotohanan, na siya ang unang sanhi at katapusan ng lahat ng bagay, katotohanan na "tinatawag ng lahat 'DIYOS'". Malalaman ng tao ang katotohanan na ito dahil ang Diyos mismo ang nagpahayag sa kanya sa pamamagitan ng pananampalata ya. Pagpapatunay sa pag-iiral ng Diyos.

信者も未洗者も輪になって

出身地瀬留で郡山司教誕生の祝い

郡山司教の出身教会である瀬留教会は、四月三十日(日)午前十一時から地



喜びを体いっばいに表す信者たち

元の同窓生や集落の人々を招いて司教叙階を祝うミサと祝賀会を行った。奄美大

た。祝賀会の参列者は二百人。伊集院忠三郎信徒会長

備をした。また、瀬留集落でも「八月踊り」の協力

短信

女性信徒の会総会

鹿兒島カトリック女性信徒の会の今年度の総会が、四月二十六日(水)カ

参列者感謝の集い

五月七日(日)午後、カテドラルで「糸永司教感謝

修女連盟総会と研修会

教区修道女連盟鹿兒島地区は五月二十一日(日)

思考

五三三人、五五八人、五二二人、〇三年から

の三年間に鹿兒島県内で自死(自殺)した人間の

る社会を築く義務を負っています。ところが、あらゆる面

社会のひずみを照らす光に

の三年間に鹿兒島県内で自死(自殺)した人間の

る社会を築く義務を負っています。ところが、あらゆる面

門田 明氏の

鹿兒島とキリスト教②

ザビエルと

ヤジロー

前回は、キリスト教日本伝来の序論として、景教の東洋伝来について語った。そして、景教の中国伝来によつて、キリスト教のほのかな香りが、ひよつとすると日本にまで漂ったかもしれないというような空想で話を終えた。

さて、掛け値なしに、本当の意味で日本にキリスト教を伝えたのは、フランシスコ・ザビエルである。多分これに反対する人はいないと思う。そして、このザビエルを日本に案内したのは、鹿兒島の若者ヤジローであつた。

ナバラ王国で一五〇六年四月七日に生まれた。青年期パリ大学で哲学修士の学位をとり、哲学の講義を担当するが、二十八歳のときイグナチオ・ロヨラと出会い、大回心し司祭の道を歩み始める。三十五歳のときリスボンを立ち、インドのゴアを拠点にして、遠くモルッカ諸島に至るまで宣教に明け暮れる生活を送った。

殺(あや)め、夜陰に乗じて山川港から海外に逃れようとする。ところが船を間違える。たまたま、その船の船長がザビエルの友人で、ヤジローの告白を聞き、高德の神父ザビエルに会つて相談することを勧める。ヤジローもその気持ちになり、一五四六年マラッカに入るがザビエルは不在。帰国しようとしたが嵐で失敗。再びマラッカに帰り、一五四七年ザビエルに会う。ザビエルはヤジローにあって大いに喜び、彼をゴアの神学校に学ばせ、その案内で、上述の通り一五四九年鹿兒島に渡来することになる。

近年、このヤジローについて二冊の本が出版された。岸野久「ザビエルの同伴者アンジロー」(吉川弘文館)と新村洋「天文十八年」(高城書房)である。これらを参考に、もう少しヤジローを取り上げたい。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

おめでとう！

区画整理のため建設工事が進められていた国頭教会(和泊小教区・メニヒ神父主任)の新聖堂落成式が、郡山司教を迎え五月十三日(土)現地であつた。

国頭は沖永良部島の北部の町で空港にも近く、また付近に日本一と言われているガジュマルの木もある。このたび落成した教会は、木造モルタル平屋造りで内部は木の温もりたっぷりのかわいい教会だ。落成

国頭に新聖堂完成



6月

- 4日(日) 聖霊降臨の主日
- ザビエル教会堅信式
- 5日(月) 三教区司祭合同黙想会・鹿兒島市・8日まで
- 11日(日) 三位一体の主日
- 12日(月) 司教総会・東京・16日
- 18日(日) キリストの聖体
- 19日(月) レンブートル会例会
- エルネスト・カスグレン神父命日(一九七九年)
- 20日(火) 定例司祭集会・教区本部・16時
- 23日(金) イエスの心
- 24日(土) 洗礼者聖ヨハネの誕生
- 25日(日) 年間第十二主日(聖ペトロ使徒座への献金)
- 29日(木) 聖ペトロ 聖パウロ使徒
- 平土野教会落成式

ザビエルさまの散歩道

聖人は今も働く

もしも今日、ザビエル様が鹿児島に上陸したというニュースが入ったなら、皆さんはどうしますか？ お迎えに行きますか？

ザビエル様はヤジロウと共に何回も何回も遭難しながら、やっと辿り着いた日本から祇園之洲に降り立った時の感動は、アポロが月面に着陸し人類が月に第一歩を記した時のように、地にひざまずき神に感謝の気持ちを表したに違いありません。

しかし、日本での布教は初めは受け入れられなかったが、内容が明らかになるにつれ、神が唯一の主であり、神のもとに人はみな平等であるとする教えが、当時の武家社会の組織や思想と相容れず、最後には迫害を受けるようになったのです。

今年生誕五百年祭、皆さんも是非ザビエル様に会いに祇園之洲とザビエル教会に行つて対話してみてください。きつとザビエル様のお声が心に聞こえてくると信じています。

（谷山教会 鶴田 繁）

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

鹿児島 本城 愛
盛花や母の日飾る嫁愛し
復活祭集う公園虹の立つ
純心学園 山頭信子
花吹雪花びらたてて走る児や
（評）「花びらたてて」はうまい。
純心学園 田村鏡子
花びらをダンスにさそう春の風
（評）客観的でよい。
純心学園 川上 和
祭壇に五色の卵勢ぞろい
（評）端的でよい。
鹿児島 春山マリ子
五月晴青葉若葉に魅する朝

青年たちがイキイキと

あっちこっちミサ3

全国の青年たちが企画した「あっちこっちミサ」が、五月三十一日（日）午後三時から川内教会でもあり、若者を中心に四十人ほどがミサに参列し、その後の交流を楽しんだ。



全国的な青年同志のつながりを意識しながら、各地での活動のきっかけにもなれば...と開催されている「あっちこっちミサ」は今回が三回目、この日、全国十八か所さげられた。鹿児島教区でのミサは川内教会でさげられ、純心大学のカトリックグループ「セントメリーズハート」と川内教会の青年たちが合同で準備し、川内から九人、入来から三人、鹿児島市内から八人、始良から三人の青年たちが集い、先輩や未来の青年たちも含めると四十人ほどが、心を一つにしてミサをさげた。

「おうちに帰ろう」をテーマにした今回のミサには、「教会が私たちの帰る

べき家でありたい」との思いが込められ、司式したハインマ神父（川内教会主任）も「人間には安心する帰るべき場所が必要、教会をそう感じてほしい」と青年たちに話した。全国の他会場の地図と教会の写真を張り出し、高松教区からのグループと共同祈願を通してお互いに祈り合ったり、連帯を意識し合う工夫も見られた。

ミサ後にはバーベキューも用意され、お互いに交流を深めていた。また、遅れて駆けつけた郡山司教も

理解のためにまず一步

青年と司教が対話

司教就任後、何かにつけ「青年たちと対話をした」という思いを述べてきた郡山司教の願いと、「新しい司教と語ってみたい」という青年たちの思いが具体化してきた。



平和を願って

今年、日本で開催されるWCRP(世界宗教者会議)の青年事前会議が東京であり、参加してみた。基調講演やパネルディスカッション、グループディスカッションなどが行われた。日本中から様々な宗教の青年たち、そして青年活動に携わっている方々三百人ほどが参加していた。

予想以上に多くの人が参加し、そして、宗教の壁を越えて平和を願い、活動していることにとっても驚いた。世界には戦争や虐待だけでなく、心の

中の誰かを憎むという「暴力」、困っている人がいるのを知りながら助けない「暴力」などがある。私たちは、そのような「暴力性」を持ちながらも、それぞれの宗教の信仰生活の中でどのように生きていくべきなのか、考えることが出来る。

宗教間でことばや表現方法は違っても、神を信仰する者同士、何か通じ合うことが出来たような気がするし、世界平和を願うのなら、世界中の宗教者同士が、お互いを理解し合い、手を取り合わなければいけないと実感した。

（川内教会 久保 泉）

感動を伝えたい

司教との対話を準備した小郷さん



司教との分かち合いの会を準備したザビエル教会

会の小郷亜紀子さん、鹿児島大学の三年生だ。昨年のワールドユースデー(WYD)に参加した彼女は、そこで「青年たちと交わり、信仰を一緒に分かち合う幸せを感じた」という。その感動

つづばらんで、飾らない郡山司教の語り口に促されながら、さまざまなことを語り合い分かち合った。参加した青年も「司教様が素朴な疑問にも答えてくれるからありがたかった」と楽しんでいた。

「このような分かち合いは自分探しのようなもの」で、青年期には特に必要なこと。これを通して信仰を自分の言葉で語れるようになって欲しい。私も自分探しの途中だ」と語る郡山司教、青年たちの要望もあり、毎月この分かち合いを行う予定。次回は六月十日午後七時から教区本部で行われる。

を皆に伝えたいという思いで、教区の青年会の会長を引き受けてくれた。「WYDに行つた仲間や皆に伝えられて頑張れます」と語る彼女。「信仰の下に集まれるような集いをしていきたい。まずは分かち合いの会を宣伝しながら市内の教会を回ってみたい」と早速動き出している。